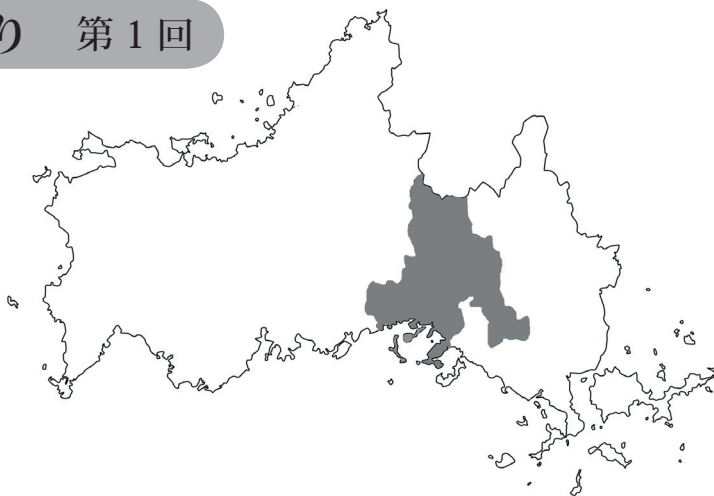


郡市医師会めぐり 第 1 回

徳山医師会



徳山医師会は昭和 10 年 11 月に設立され、今年で創立 77 年目を迎えます。平成 15 年 4 月 21 日にいわゆる「平成の大合併」の山口県内における初の事例として旧徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の 2 市 2 町が合併し誕生した「周南市」を医療圏としております。

徳山医師会の特徴を一言で言うと（恐れ多いですが）、非常にアクティブな医師会ということでしょうか。徳山医師会の行っている事業は、通常の医師会事業に加え、徳山医師会病院、健診センター、徳山医師会病院検査センター、徳山看護専門学校、在宅支援関連事業、徳山医師協同組合、休日夜間急病診療所及びこども急病センターなど多岐にわたっています。

なかでも、中核をなすのが徳山医師会病院です。昭和 22 年に開設された前身の徳山博愛会病院を発展的に解散し、徳山医師会が継承する形で、昭和 41 年 4 月に当時の梅原亨会長が「医師会病院は医師の道場である」という理念で、日本初の完全オープンシステム病院として設立されました。昭和 46 年の武見太郎日医会長の保険医総辞退に対し、山口県医師会長として地域医療を守るため毅然とした対応をされた梅原先生の信念がいまも受け継がれており、現在に至っても、完全オープンシステム病院は当院だけであります。徳山医師会病院では、医師会員はだれでも登録医として、自ら主治医となり 24 時間

体制で入院・診療できます。開院以来、一件も医療訴訟がなかったのは、通院から入院、入院から通院という一貫した診療がなされるため、登録医と患者さんとの信頼関係が築かれているためだと思います。厚生労働省の「新しい医療計画の作成に向けた都道府県と国との懇談会」において、診療所が中心となった医療連携を構築している事例として、徳山医師会病院が取り上げられたことも記しておきます。

また、森松光紀院長以下、放射線科、外科、泌尿器科、循環器科、呼吸器科、神経内科、リハビリテーション科などの常勤医による専門外来や山口大学や徳山中央病院からのコンサルタント医師による外来もあり、専門外の疾患に関しても、登録医、常勤医、コンサルタント医師による連携で対診可能です。外科系登録医による手術も、山



完成予想図



新病棟建設現場

口大学麻酔科松本美志也教授のご援助で麻酔専門医を派遣いただき（教授自らも麻酔を担当されます）、眼科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、婦人科、外科、整形外科、皮膚科など、年間 500 件前後行っております。平成 13 年には地域医療支援病院の認定を受け、平成 18 年には日本医療機能評価機構の認定病院となりました。

しかし、開院以来 45 年以上経ち、施設の老朽化による耐震性の問題が浮上し、ここ数年来の懸案として論議された結果、総工費 30 億円余りをかけ、現病院の隣接地に新病棟を建設中であります。市中心部、万葉の森近くの小高い丘の上にあります。晴れた日には、コンビナート越しに瀬戸内の穏やかな海と島々の間を行き交うタンカーなどが見えます。現在の工程表では完工は平成 25 年 10 月の予定となっております。

また、徳山医師会は、県下に先駆け、住民健診・予防接種の地域医療の広域化に取り組んできました。近年、全国的に問題となっております休日夜間の救急体制に関しても、早くから休日夜間急病診療所を設立。特に小児救急に関しては、周

南小児科医会の先生方のご尽力で、平成 11 年より休日夜間診療所に小児科医の出務が開始。平成 20 年 12 月より周南地域休日夜間こども急病センター（愛称：周南こども QQ）が社会保険徳山中央病院内に開設され、画期的な小児救急体制が実現し、病院勤務医の過重労働抑制にも効果が上がっていると考えられます。

このように病診連携・診診連携がよく築かれているのが徳山医師会ですが、要は、医師同士の顔の見える信頼関係の上に成り立っていると思います。医師会主催で、勤務医と開業医との懇親会が開催されたり、250 回を重ねた徳山医師会ゴルフコンペ（徳医会）では若手からベテランまで和気あいあいとプレーし、テニス同好会、野球部、ワンダーフォーゲルクラブ、徳医句会、徳山医謡会など、さまざまな形で会員同士の絆を深めております。

商店街の衰退などが顕在化し、商業施設に関しては近隣地域に押され気味ですが、こと住民の医療に関しては、県内、いえ全国でも誇れる地域だと自負しております。

[徳山医師会広報担当理事 津永長門]

新コーナー設置にあたり

県下の郡市医師会の活動や行政などとの関係を紹介すべく、表題コーナーを設置することにいたしました。ご自身の医師会と比べてみるのも面白いかもしれません。

医師会活動のみならず、わが町の自慢、見どころなどお気軽にご紹介ください。楽しいコーナーに育てていただければ幸いです。

（常任理事 林 弘人）